

# しながわCSR推進協議会 活動レポート2021

令和3年度のしながわCSR推進協議会の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面開催等、一部実施方法の変更や中止をしています。そのため、実施できなかった活動については、参考までに過去の実施の様態を掲載させていただいておりますので、ご了承ください。

## 総会を書面開催

令和3年7月26日(月)に令和3年度しながわCSR推進協議会の総会を書面で開催しました。

令和2年度の総会以降に新規入会した企業の紹介や令和2年度の協議会活動報告、令和3年度の協議会活動予定について報告しました。また、会員企業の東京サラヤ株式会社からは、自社で行った「灯籠プロジェクト」に関する活動報告がありました。

### 〈議 題〉

- (1) しながわCSR推進協議会新規会員紹介
- (2) 令和2年度しながわCSR推進協議会の活動報告について
  - ①総会 ②幹事会 ③課題別分科会 ④合同活動（しながわ花海道 美化活動）
  - ⑤パネル展 ⑥その他（情報発信等について）
- (3) 令和3年度しながわCSR推進協議会の活動予定について
  - ①幹事会 ②CSR講演会と活動事例発表会 ③課題別分科会 ④合同活動 ⑤パネル展
  - ⑥メールマガジン ⑦パンフレット
- (4) 企業からのお知らせ  
・東京サラヤ株式会社
- (5) 区からのお知らせ

会場開催の様子（令和元年度）



# ● 幹事会をオンライン開催

平成 29 年 10 月、協議会会員企業の様々な社会貢献活動の要望に応えるとともに、協議会活動の活性化を図り企業の協議会運営への参加を推進することを目的として、幹事会が設置されました。会員企業のうち 14 社(令和 4 年 3 月 1 日現在)が幹事企業になっています。

令和 3 年 5 月 27 日(木)、令和 3 年度第 1 回幹事会をオンラインで開催し、しながわ CSR 推進協議会の事業である「CSR 講演会」や「課題別分科会」、「合同活動」について検討を行い、それぞれのテーマや実施の方向性などを確認しました。

## 〈議 題〉

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| (1) 令和 3 年度の活動予定について (案) | (4) 課題別分科会のテーマについて |
| (2) 総会の開催方法について          | (5) 合同活動の内容について    |
| (3) 講演会のテーマ・講師候補者について    | (6) その他 (意見交換)     |

令和 4 年 3 月 2 日(水)、令和 3 年度第 2 回幹事会をオンラインで開催し、令和 3 年度の活動実績報告のほか、令和 4 年度の活動予定の方向性や協議会活動に関する意見交換を行いました。

## 〈議 題〉

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| (1) 令和 3 年度協議会活動の実績報告について | (3) その他 (CSR に関する意見交換等) |
| (2) 令和 4 年度活動予定について (案)   |                         |

## オンライン開催の様子 (令和 3 年度)



## 会場開催の様子 (令和元年度)



## < 幹事企業一覧 > (50 音順)

池田印刷株式会社、いすゞ自動車株式会社、SMK株式会社、3Mジャングループ、ソニーグループ株式会社、東京サラヤ株式会社、株式会社トリドールホールディングス、日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社、株式会社フォーカスシステムズ、株式会社文化堂、本多通信工業株式会社、株式会社モスフードサービス、株式会社ローソン、ロジスティックスオペレーションサービス株式会社

# CSR講演会と活動事例発表会をオンライン開催

令和4年2月10日(木)、オンラインでCSR講演会と活動事例発表会を開催しました。

## ○第一部 CSR講演会



### テーマ

企業価値を高めるアフターコロナのCSR

### 講師

一般社団法人CSRコミュニケーション協会 代表理事  
安藤 光展 氏

コロナ禍の中で厳しいビジネス環境が続いています。財務状況が厳しい企業も多く、今後のCSR活動に期待されるのは、リターンが不明瞭な慈善活動から一步先に進んだ“価値創造”です。コロナ禍で経済的・社会的な価値をより生み出すためには何をすべきなのか。最新トレンド紹介を含めて“より価値を生むCSR”のポイントについて、「サステナビリティ」というより広い視点からご講演をいただきました。

(以下、講演内容抜粋)

サステナビリティ(=持続可能性)とは、将来世代のための「姿勢・経営方針」を示すものであり、これには、近年話題となっているSDGsやCSR、ESG、CSVなどの考え方をすべて含んでいます。本講演では、協議会会員企業が今後CSR活動を推進するうえでの基盤となってくる、サステナビリティについて、深掘していききたいと思います。

ビジネスとして何か事業を行う際には、必ずポジティブな影響(企業価値向上など)とネガティブな影響(環境負荷など)が生じるものです。サステナビリティを推進する最大の目的は、このポジティブな影響を最大化し、ネガティブな影響を最小化していくことであります。

「道徳なき経済は罪悪であり 経済なき道徳は寝言である」これは、江戸時代末期の思想家 二宮尊徳の金言です。これを企業に当てはめると「倫理観の無い事業活動は罪であり 企業利益を求めない倫理観は綺麗ごとである」と言えます。つまり、企業が事業活動を行うにあたっては、サステナビリティと企業利益を両立しなければならないということとなります。

さて、ここから話を進めるにあたり、サステナビリティやCSRにもトレンドがあるという点を押さえておいていただきたいと思います。1990年代頃までは、「環境・コンプライアンス・社会貢献」に関する取り組みが盛んに行われていましたが、近年では、「ESG(気候変動・人材活用・人権・組織統治等)の考え方」に基づいた活動が非常に重要視されるようになってきております。このようなトレンドを正確に把握し、上手に舵を取ることが、サステナビリティを推進するうえで重要です。



では、サステナビリティを推進することで、企業にとってどのようなメリットがあるのかについて話を進めたいと思います。これには大きく分けて2つあると考えています。

1つ目は、「企業価値の向上・維持」であります。例えば、ブランドイメージの構築や企業や商品に対する社会的イメージの向上などがこれにあたります。

2つ目は、「ステークホルダーへのアプローチ」です。企業の社会的評価が向上することにより、優秀な人材のリクルートや、社員のモチベーション維持に繋がることが期待できます。特に、リクルート面に関しては、就職活動中の大学生の実に6割以上が企業のサステナビリティ活動（CSR活動含む）について自身で調べたうえで志望先の企業を決定しているというデータもあることから明らかです。

つまり重要なことは、サステナビリティの推進が、結果的に自社利益に繋がるということです。目先のコストだけではなく、中長期的な成果とメリットを見据えて事業を実践すべきです。



さて、ここで本講演会のタイトルにもなっている「アフターコロナのCSR活動」について話を進めたいと思います。コロナ禍でCSR活動を推進することが極めて難しい状況が続いています。そこで私がお勧めしたいのが、この時期を「基礎固めの時」として、戦略の見直しを図ることです。具体的には以下3つのフェーズで見直しを図っていただきたいと考えています。

1つ目のフェーズは「立ち上げフェーズ」です。ここでは、活動の基礎作りと情報開示の準備を進めていただきたいと考えます。このためには、サステナビリティに関する基本的な考え方を学ぶことや、必要な情報を取得することが重要であります。本講演会も、そのうちの一つとして役立てていただければ幸いです。

2つ目のフェーズは「推進フェーズ」であります。ここでは、社内浸透促進と評価向上の基礎作りを行っていただきたいと考えます。特に社員向けのオンライン研修を行うことや、専用のウェブサイトを作成することなどが効果的であるといえます。

3つ目のフェーズは「先進フェーズ」であります。ここでは、サステナビリティ経営の実現による価値向上を図っていただきたいと考えます。つまりは、社会貢献を行いつつ、自社のビジネスモデルを実践していただきたいということです。

最後に、近年のサステナビリティの動向について少し触れたいと思います。2021年6月に改訂されたCGC（コーポレートガバナンス・コードの略）により、上場企業におけるサステナビリティの方向性がより明確となりました。具体的には、企業がサステナビリティについての基本的な方針を策定し自社の取り組みを開示することなどが求められています。CGCは3年に1度更新されるのですが、前回の更新時（2018年）と比較し、明らかにサステナビリティが重要視されております。次回の更新時（2024年）には、さらに重要性が増すことは間違いありませんので、今のうちから、自社のサステナビリティを推進していくことが非常に肝要です。もちろんこれは、上場企業のみならず、中小企業にも同じことが言えます。



本日の講演会では、アフターコロナの時代に、各企業がどのようにサステナビリティ、ひいてはCSR活動に取り組むべきか、そのヒントとなる情報をいくつか提示させていただきました。厳しいコロナ禍を乗り越え、今後さらにサステナビリティを推進するにあたり、参考にいただければ幸いです。

## ○第二部 活動事例発表会

活動事例発表会では、協議会会員企業を代表して2社から発表をいただきました。1社目のセガサミーホールディングス株式会社からは、品川区少年サッカー連盟とコラボして開催した「ぷよぷよ杯」の事例を、2社目の三菱鉛筆株式会社からは、区立小学校・義務教育学校と連携して実施した「鉛筆の資源循環プログラム」の事例をそれぞれ発表していただきました。

(以下、講演内容抜粋)

### ①セガサミーホールディングス株式会社 サステナビリティ推進室 向 潤一郎 氏 (グループ企業：株式会社MPandC 野田 恭平 氏)

令和3年11月に開催された小学4年生を対象とした少年サッカー大会(ぷよぷよ杯)に、セガサミーグループとして「特別協賛」という形で参加し、運営に携わることで大会をおおいに盛り上げました。参加した子ども達を喜ばせるため、PK大会の景品にサッカースパイクをサプライズで用意したり、会場内に「ぷよぷよeスポーツ」体験ブースを設置するなど、様々な仕掛けを施しました。その結果、通常のサッカー大会とは異なる、子ども達にとって非常に刺激的な大会とすることができたと考えています。

セガサミーグループは、グループミッションである「感動体験を創造し続ける」の達成を目指して、今後も様々な取り組みを行っていきます。これからも品川区の一員として、多くの感動体験をしてもらえそうなイベントを企画していきたいと考えています。



### ②三菱鉛筆株式会社 商品開発部 岡田 都美子 氏

三菱鉛筆株式会社・日本郵便株式会社東京支社・株式会社サカタのタネ・品川区教育委員会で協力し、鉛筆の資源循環プロジェクト「フォレストサポーター活動」を開始しました。これは、短くなって使えなくなった鉛筆を、捨てるのではなく再利用する活動です。具体的には、使えなくなった鉛筆を学校等で回収し、肥料として再生して、それを学校で使用します。資源循環を身近に体験することで、子ども達が環境問題などについて考えるきっかけとなればと思っています。令和3年度から品川区立小学校・義務教育学校のうち11校と品川郵便局でトライアルを実施したのち、この活動を品川区から全国に広げていきたいと考えています。



# 課題別分科会（環境）をオンライン開催

令和3年12月21日(火)、「環境」をテーマとした分科会をオンラインで開催しました。19企業28名が参加し、環境活動に対する理解を深めるとともに、意見交換を行いました。



## 〈議 題〉

- (1) 「エシカル消費」について  
(説明：消費者センター所長)
- (2) 「品川区立環境学習交流施設エコルとごし」について  
(説明：環境課環境推進係長)
- (3) 「品川区環境保全活動団体」について  
(説明：環境課環境推進係長)
- (4) 「環境」に関する意見交換会



議題(1)では、品川区消費者センター所長より、エシカル消費（地域環境などを考えて作られたものを選んで、購入したり消費したりすること）の重要性についての説明がありました。エシカル消費については、SDGsにある「つくる責任 つかう責任」とも合致することから、企業活動において重要視していただきたいポイントです。

議題(2)では、環境課環境推進係長より、令和4年度にオープンする新施設（エコルとごし）について説明がありました。企業のCSR活動にも使用できる施設となっているため、ぜひともご活用を検討していただきたいと思います。

議題(3)では、引き続き、環境推進係長より、環境保全活動団体についての説明がありました。環境保全活動団体として登録した企業は、エコルとごしの利用料免除・優先予約ができるほか、活動紹介の場の提供や企業間の情報交換が可能です。緑化活動やリサイクル活動に積極的に取り組まれている企業は、ぜひ登録していただくことをお勧めいたします。

議題(4)環境に関する意見交換会の中では、参加企業から、これまでに行ってきた環境活動の実績を紹介していただくなど、大変有意義な情報交換の場となりました。

## 令和4年5月1日オープン！ 品川区立環境学習交流施設エコルとごし

「品川区立環境学習交流施設エコルとごし」は、戸越公園の豊かな自然や体感を重視した展示物をはじめ、環境を楽しみながら学ぶことができる施設です。

オープンまでの最新情報をお届けするため、プレサイトを開設しています。施設の概要や工事の進捗、最新のお知らせなど、エコルとごしの情報が盛り沢山です。ぜひご覧ください。



〈南側外観イメージ〉

問合せ先

品川区都市環境部 環境課 環境推進係

電話：03-5742-6755(直通)

メール：kankyo-suishin@city.shinagawa.tokyo.jp



◀ プレサイト  
QRコード

# 🌐 合同活動（しながわ花海道 美化活動に参加）を実施

令和3年度は、密集・密接を避けるため特定の活動日は設けず、各企業が任意の1日に作業を行いました。1回目は7月4日(日)～7月10日(土)の間でコスモスの種まきを、2回目は10月31日(日)～11月7日(日)の間で菜の花の種まきを実施しました。

この種まきは、勝島運河沿いの土手、全長約2 Km あるしながわ花海道で毎年開催され、1.5メートル四方の区画およそ1,200区画に、地元町会や区内にある立正大学の学生、企業など子どもから大人まで多くの人々が参加しています。

## 【コスモスの種まき】



### <参加会員企業> (50音順)

SMK株式会社、セガサミーホールディングス株式会社、ソニーグループ株式会社、大成温調株式会社、第一生命保険株式会社 品川支社、東京サラヤ株式会社、東京都競馬株式会社、日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社、株式会社日立ソリューションズ・クリエイト、三菱総研DCS株式会社、明治安田生命相互会社 品川支社、株式会社ローソン

## 【菜の花の種まき】



### <参加会員企業> (50音順)

SMK株式会社、株式会社キューブシステム、黒田グループ株式会社、三和テッキ株式会社、セガサミーホールディングス株式会社、ソニーグループ株式会社、大成温調株式会社、第一生命保険株式会社 品川支社、大東コーポレートサービス株式会社、東京サラヤ株式会社、東京都競馬株式会社、株式会社トリドールホールディングス、日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社、日本航空株式会社、日本たばこ産業株式会社 東京南部第二支店、美鈴工業株式会社、三井金属リサイクル株式会社、三菱総研DCS株式会社、明治安田生命相互会社 品川支社、ヤマト運輸株式会社 新東京主管支店、株式会社ローソン、ロジスティックスオペレーションサービス株式会社

## パネル展を開催

令和3年9月10日(金)～9月24日(金)しながわ CSR 推進協議会パネル展が開催されました。

このパネル展は、協議会の会員企業が、防災・環境・教育・福祉・地域活動など、様々な分野において実施している社会貢献活動を区民や企業の皆様に広くお知らせするために行われています。

区役所3階連絡通路とスクエア荏原1階通路を会場として、ご来場の皆様にご覧いただきました。



## 企業の社会貢献活動の情報発信

### ○ホームページ

企業の社会貢献活動を推進するために、協議会の活動や、区内企業の社会貢献活動の情報を「品川区ホームページ」および「しながわすまいるネット」(品川区民活動情報サイト)で発信しています。ご興味のある方は、ぜひご活用ください。

#### ① 品川区ホームページ (<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>) →



- ・「企業との協働」と検索してください。  
⇒「企業との協働(しながわ CSR 推進協議会など)」がご覧いただけます。
- ・「企業 プログラム」と検索してください。  
⇒「企業(しながわ CSR 推進協議会会員)が実施するプログラム等の紹介」がご覧いただけます。

#### ② しながわすまいるネット (<https://www.shinagawasmile.net/>) →



- ・「団体登録」を選択してください。  
⇒「団体検索」にて「しながわ CSR 推進協議会」と検索するとご覧いただけます。

### ○メールマガジン

協議会のメールマガジンを平成25年度に創刊し、随時、協議会の活動、会員企業の社会貢献活動、新規入会企業の紹介、区からのお知らせなどを会員企業等に配信しています。

バックナンバーは、区ホームページに掲載しています。

### ○PR動画の配信

本協議会および会員企業の社会貢献活動を、より区民の方々等に知っていただき、身近に感じていただくためPR動画を制作しました。ケーブルテレビ品川等での放映や、YouTube 品川区公式チャンネル「しながわネットTV」でも配信しています。

YouTube 品川区公式チャンネル「しながわネットTV」  
(<https://www.youtube.com/ShinagawaNetTV>) →



YouTubeにて「しながわ CSR 推進協議会」と検索するとご覧いただけます。

## ① 〈参考〉 合同活動（清掃美化活動）（令和元年度実施の様子）

令和元年12月20日（金）、「しながわ CSR 推進協議会」の活動の一環として、会員企業による合同活動（清掃美化活動）を実施しました。

この合同活動（清掃美化活動）は、企業と区が合同で行うことにより、社会貢献活動に対する社員（職員）の意識啓発を図るとともに、協議会の活動を広くPRし、活動を通じて参加者相互の交流や地域への愛着を深めることを目的としています。

6回目の実施となる今回は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げるため、品川区独自ボランティアである「しな助」の活動として、参加者全員が「SHINASUKE」と書かれたタオルを首から提げて行いました。

参加した30企業と品川区役所を合わせた31事業所167人が11チームに分かれて、区立しながわ中央公園を拠点とし、大井町駅方面、大崎駅方面、西大井駅方面などを清掃しました。

参加者は「普段何気なく歩いている道でも、清掃活動をすれば多くのごみが拾える。常にごみを捨てない意識、ごみを拾う意識を持つことが必要だと改めて感じた」「各チームに企業が混在していたので、たくさん話ができ交流を深める良い機会にもなった」と感想を話していました。



### < 参加会員企業 > (50音順)

SMK株式会社、株式会社学研ホールディングス（他2社のグループ企業も参加）、  
キャノンITソリューションズ株式会社、光陽産業株式会社、コベルコ建機株式会社、三和テッキ株式会社、  
住友重機械工業株式会社、ソニーグループ株式会社、大成温調株式会社、  
第一三共株式会社 品川研究開発センター、第一ホテル東京シーフォート（株式会社阪急阪神ホテルズ）、  
大日本印刷株式会社、東京サラヤ株式会社、東京都競馬株式会社、東芝エレベータ株式会社 東京支社、  
東芝テック株式会社、東洋製罐グループホールディングス株式会社（他4社のグループ企業も参加）、  
日産東京販売ホールディングス株式会社、株式会社日本アクセス、  
日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社（他5社のグループ企業も参加）、  
日本たばこ産業株式会社 東京南部第二支店、  
富士電機株式会社、本多通信工業株式会社、  
三井金属リサイクル株式会社、  
三菱総研DCS株式会社、株式会社明電舎、  
株式会社モスフードサービス、  
株式会社リブセンス、株式会社ローソン、  
ロジスティクスオペレーションサービス株式会社



# 品川区基本構想

区では、社会経済環境の変化とこれからも守るべき伝統や文化、助け合いの心などの普遍的価値を踏まえて平成 20 年 4 月に、区民と区との共同指針として新しい基本構想を策定しました。この基本構想では、「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」を将来像として品川区が今後進むべき方向を三つの基本理念として示し、将来像を具体化した五つの都市像を掲げています。長期基本計画は、基本構想を具体化するために行う施策と、実現の方向を明らかにした今後 10 年間の計画です。前計画の終了に伴い、新計画を令和 2 年 4 月にスタートさせ、様々な施策を展開しています。



## SDGs (Sustainable Development Goals) とは

SDGs (持続可能な開発目標) は、平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核を成す、令和 12 年を年限とする開発目標であり、先進国を含む国際社会共通の目標です。

SDGs は持続可能な世界を実現するための 17 の目標 (ゴール) から構成され、「誰一人として取り残されない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する総合的な取り組みが示されています。

